

薬剤部

山崎邦夫

大阪医療センターの運営方針に基づき、正確な調剤、良質な医薬品供給、医薬品の適正使用の推進、医薬品の安全管理、病棟における薬物療法の有効性・安全性の向上に資する業務、薬剤管理指導業務、チーム医療への主体的関与（HIV 感染症患者への服薬支援、がんサポートチーム、NST、ICT、外来化学療法室でのがん薬物療法支援など）を実践し、良質かつ適正な医療の提供に貢献することを薬剤部の基本方針としている。また、各種専門薬剤師のもと専門認定施設（がん、HIV、NST、小児）としての研修受け入れ体制を確立している。

1. 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟担当薬剤師を専任化し、病棟薬剤業務実施加算の要件である病棟での必須業務時間（20時間/週）を確保しつつ、薬物療法の質の向上と医療安全の確保を主な目的として、次の業務を行っている。

1) 無菌調製業務

注射処方投与量、投与速度、配合変化などの確認を行うとともに、病棟に設置したクリーンベンチ内で注射薬の無菌調製を行っている。（43,938 件/年）

2) 入院時の持参薬確認

入院時の持参薬について、薬剤師による正確な報告、服用状況の確認を行うことにより、医療安全の向上と持参薬服用の適正化に取り組んでいる。

3) 処方提案・支援

主治医に対して行っている主な処方提案・支援は、持参薬の代替薬の提案、処方設計支援、支持療法薬の提案、薬物血中濃度に基づいた処方設計である。

4) 医薬品情報の提供・相談応需

採用医薬品情報の提供や医薬品に係る医療スタッフからの照会や相談に対して情報提供に努めている。

5) 薬剤管理指導業務

医薬品薬物療法に係る様々な情報を収集・分析し、その内容から効果の評価、副作用のモニタリングを実施する事により、適正使用と副作用の発現防止が主な業務である。また、緩和ケアチーム、ICT、NSTなどのチームと連携して、薬学的アプローチを積極的に実施している。

2. 外来服薬支援指導

抗 HIV 薬の服薬には職種間の連携、HIV 感染症の専門的知識が必須であることから、HIV 感染症専門薬剤師（専従 2 名および専任 1 名）を配置し、感染症科外来に隣接した「お薬の相談室」に薬剤師が常駐し、患者サービスの向上や医療スタッフ間の連携強化を図るとともに HIV 感染症患者対象の緩和ケアチーム（PWA: (people with AIDS) サポートチーム）にも参画し、長期的な支援体制を構築している。外来における指導件数は 3,496 件/年であった。また、外来化学療法室では、治療計画、副作用などについて指導を実施し、がん薬物療法の安全と質の向上に努めている。薬剤師による外来がん薬物療法患者への指導件数

は 696 件/年であった。主治医からの依頼によるがん患者指導管理料請求件数は 286 件/年であった。

3. 医薬品情報管理（収集・整理・評価・提供）

医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、医療スタッフからの相談応需や医薬品情報の発信を行っている。また、薬事委員会決定事項、厚生労働省医薬品・医療機器安全性情報、院内 Q&A、トピックスなどを掲載した院内医薬品情報誌「Drug Information Service (DIS)」を 2 ヶ月毎に発行している。院内における医薬品に係わる情報を集積し、医療安全推進室や関係委員会と連携して院内への周知を図るとともに、厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告については 55 件/年の報告を行っている。また、プレボイド報告としては日本病院薬剤師会に 303 件/年の報告を行っている。

4. 治験薬管理業務

治験薬管理者（薬剤部長）の管理責任の下、GCP を遵守した治験薬の適切な保管、管理、調剤を行うと共に、抗がん剤や注射薬の無菌調製などを行い、被験者への治験薬投与が円滑かつ安全に行われるよう努めている。更には、受託研究審査委員会委員として院内における治験・臨床研究の適切な実施の推進に協力している。

5. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤師会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設、日本病院薬剤師会小児薬物療法認定薬剤師研修施設の認定を受けている。また、部員や院内職員を対象とした院内研修会の参画に積極的に取り組んでいる。

今年度の薬学生長期実務実習生は 31 名を受け入れ薬学教育にも寄与している。

6. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。今年度は、国内外学会誌に論文、国際学会に演題を報告した。

【2016 年度 研究発表業績】

A-0

Ikuma M, Watanabe D, Yagura H, Ashida M, Takahashi M, Shibata M, Asaoka T, Yoshino M, Uchira T, Sugiura W, Shirasaka T : Therapeutic Drug Monitoring of Anti-human Immunodeficiency Virus Drugs in a Patient with Short Bowel Syndrome. 「Intern Med」 55(20) : P3059-3063、2016 年 10 月 15 日

A-6

矢倉裕輝 : Evidence Update 2017 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する 抗ウイルス薬「薬局」68 (1) : P100-102、南山堂、2017 年 1 月 5 日

矢倉裕輝 : Q&A 形式 Case Study 「HIV 感染症と AIDS の治療」7(2) : P33-35、メディカルレビュー社、2016 年 11 月 1 日

B-2

Yagura H, Watanabe D, Ashida M, Nakauchi T, Tomishima K, Togami H, Hirano A, Sako R, Doi T, Yoshino M, Takahashi M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T : Relationships between dolutegravir plasma-trough concentrations, UGT1A1 genetic polymorphisms, and side-effects of central nervous system in Japanese HIV-1-infected patients. HIV Drug Therapy 2016, 2016年10月25日

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Tomishima K, Kasai D, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Yamazaki K, Shirasaka T : Effect of dolutegravir plasma concentration on central nervous system side effects. Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections 2017, Seattle, 2017年2月15日

B-3

矢倉裕輝 : 大阪医療センターの外来 HIV 感染症診療における薬剤師業務の現状。第 70 回国立病院総合医学会 シンポジウム 8、沖縄、2016年11月11日

矢倉裕輝、山崎邦夫、白阪琢磨 : 大阪医療センターにおける処方動向。第 30 回日本エイズ学会学術集会 シンポジウム 15、鹿児島、2016年11月26日

B-4

今西嘉生里、坂倉広大、中蔵伊知郎、上野裕之、土井敏行、山崎邦夫 : 病棟薬剤師による注射用抗菌薬への全例介入に向けた取り組み。第 64 回日本化学療法学会総会、神戸、2016年6月10日

中蔵伊知郎、坂倉広大、小川吉彦、上地隆史 : カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 菌血症に対するアミカシン硫酸塩 (AMK) ・メロペネム水和物 (MEPM) 併用療法の有効性と問題点。第 64 回日本化学療法学会総会、神戸、2016年6月10日

坂倉広大、中蔵伊知郎、今西嘉生里、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫 : 当院における静注用メトロニダゾール (MNZ-IV) の使用状況及び安全性に関する検討。第 64 回日本化学療法学会総会、神戸、2016年6月11日

垣内万依、庄野裕志、上野裕之、田中希世、大谷陽子、八十島宏行、水谷麻紀子、増田慎三 : 術前化学療法におけるアルブミン懸濁型パクリタキセルの治療強度に影響を及ぼす要因についての検討。第 24 回日本乳癌学会学術総会、東京、2016年6月16日

中蔵伊知郎、坂倉広大、今西嘉生里、岩川精吾、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫 : クレアチニンクリアランス 50mL/min 未満の症例におけるメロペネム水和物 (MEPM) の肝・腎機能所見への影響に関する後方視的調査。第 26 回日本医療薬学会年会、京都、2016年9月17日

畑 裕基、畝 佳子、服部雄司、北宅良祐、桶本 幸、河合 実、小林勝昭 : 非小細胞肺癌患者 (NSCLC) 47 例への Nivolumab 投与の有効性と安全性の調査。第 26 回日本医療薬学会年会、京都、2016年9月18日

坂倉広大、中蔵伊知郎、今西嘉生里、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：残腎機能を有した持続的血液濾過透析施行症例への負荷投与実施および早期バンコマイシン血中濃度測定の検討。第26回日本医療薬学会年会、京都、2016年9月19日

仲野宏紀、森 恵子、平松 彰、山田雄久：重症心身障害児（者）病棟における服薬指導のアンケート調査～現状と問題～。第70回国立病院総合医学会、沖縄、2016年11月11日

萬浪綾乃、南 沙甫、中筋早織、梅原玲緒奈、朴井三矢、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫：アセトアミノフェン1日4000mg経口投与の使用調査。第70回国立病院総合医学会、沖縄、2016年11月12日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨：日本人HIV-1感染症症例におけるエルビテグラビルおよびコビスタットの血漿トラフ濃度に関する検討。第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016年11月24日

中内崇夫、矢倉裕輝、富島公介、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV感染症患者に合併したサイトメガロウイルス感染症治療におけるホスカルネットナトリウム投与時の臨床検査値の変化に関する調査。第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016年11月24日

富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、伊熊素子、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨：ドルテグラビルの錠剤と簡易懸濁法による投与時の血中濃度比較。第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016年11月26日

中蔵伊知郎、坂倉広大、廣田和之、上地隆史、坪倉美由紀、上平朝子、山崎邦夫：カルバペネム系抗菌薬の院内採用薬の一本化は緑膿菌における薬剤感受性率に影響しない。第32回日本環境感染学会総会・学術集会、2017年2月25日

中村さやか、服部雄司、明石直子、庄野裕志、馬場奈央、安原加奈、八十島宏行、佐光留美、土井敏行、増田慎三、山崎邦夫：当院薬剤部・外来化学療法室における抗がん剤の曝露調査結果。日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017、新潟、2017年3月19日

B-6

矢倉裕輝、渡邊 大、富島公介、佐光留美、土井敏行、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：日本人HIV-1感染症患者におけるUGT1A1遺伝子多型とドルテグラビル血漿トラフ濃度の関連。第1回日本臨床薬理学会近畿地方会、大阪、2016年9月17日

服部雄司、明石直子、庄野裕志、馬場奈央、八十島宏行、佐光留美、土井敏行、増田慎三、山崎邦夫：抗がん剤曝露対策における環境汚染調査の結果報告。第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会、大阪、2017年2月26日

柴野理依子、今西嘉生里、中蔵伊知郎、坂倉広大、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫：病棟薬

剤師による病棟薬剤業務として注射用抗菌薬への全例介入に向けた取り組み。第 38 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、大阪、2017 年 2 月 26 日

新田 亮：MRSA の伝播予防を目的とした鼻腔用ムピロシン使用の検討。第 64 回日本化学療法学会西日本支部総会 2016、沖縄、2016 年 11 月 26 日

溝内亜希子、矢倉裕輝、明石直子、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫：トホグリフロジン投与により体重および体組成に変化を来した症例。平成 29 年度近畿国立病院薬剤師会学術大会、大阪、2017 年 3 月 18 日

吉村美美、江原美里、大矢博己、矢淵慈子、高橋政成、垣内万依、溝内亜希子、坂本麻衣、宮田美知、高原由香、矢倉裕輝、佐光留美、土井敏行、山崎邦夫：調剤過誤チームの活動がもたらす効果。平成 29 年度近畿国立病院薬剤師会学術大会、大阪、2017 年 3 月 18 日

B-8

矢倉裕輝：長期服用における副作用マネジメント。COMPLERA user's conference、東京、2016 年 4 月 2 日

矢倉裕輝：頻用されている抗 HIV 薬の特徴と選択のポイント。第 3 回抗 HIV 療法ブラッシュアップセミナー、大阪、2016 年 5 月 28 日

富島公介：アドヒアランス疑いとその治療実例『ART 変更時の服薬相談』。第二回近畿ブロック HIV 診療薬剤師勉強会、大阪、2016 年 6 月 11 日

矢倉裕輝：投与量の個別化設定の可能性～母集団パラメータを用いた投与量設計～。第 7 回大阪ヘモフィリアフォーラム、大阪、2016 年 8 月 19 日

明石直子：がん疼痛緩和薬の基礎知識。中央区東・南薬剤師 研修会、大阪、2016 年 8 月 24 日

矢倉裕輝：加齢および治療の長期化に伴う合併症対策と薬剤選択。第 1 回 HIV ファーマシストフォーラム、東京、2016 年 9 月 10 日

矢倉裕輝：薬剤師の役割と服薬指導。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 28 日

矢倉裕輝：当院の処方動向と患者さんの外来診療における薬剤師ニーズについて。関西 HIV 臨床カンファレンス薬剤師部会、大阪、2016 年 10 月 1 日

矢倉裕輝：QOL を長期にわたり維持するための戦略的な服薬設計。ヤンセン Web セミナー、東京、2016 年 11 月 9 日

矢倉裕輝：服薬支援の実際～服薬スケジュールの組み方・服薬継続への関わり～。平成 28 年

度 HIV/AIDS 看護研修会、大阪、2016年11月14日

矢倉裕輝：頻用されている薬剤の特徴と留意点。第4回抗 HIV 療法ブラッシュアップセミナー、大阪、2016年12月3日

服部雄司：集中治療域における薬剤師の関わり、始めの一步 循環器領域での考え方 基礎編。大阪府病院薬剤師会 実務セミナー、大阪、2017年2月5日